



21世紀の森と広場

# とんぐり



パークセンターだより 第99号 2009年10月・11月号

みぢか

## 身近な冬鳥「ツグミ」

自然解説員  
なおい ひろし  
直井 宏

スズメ目ツグミ科・体長24cm

頭、背、肩羽<sup>かたばね</sup>など上面は暗褐色で、眉斑<sup>まゆばん</sup>と喉<sup>のど</sup>は淡黄白色、下腹は白っぽく胸とわき腹に黒斑があり、翼<sup>つばさ</sup>は茶褐色です。この様に細かく羽色を書きましたが、ツグミの羽色は非常に個体差が大きく、共通の部分はよく目立つ眉斑と喉の淡黄白色や下腹の白い部分くらいです。ほかに羽色の個体差の多い代表的な鳥に猛禽類<sup>もうきんるい</sup>のノスリやチュウヒ等がいます。



ツグミ

吹く風の向きが西や北風の日が多くなり、熟れた柿の実が目立つ季節になりますと、晴れた夜空を鳴きながら飛んでいくツグミに気づく時があります。ツグミの飛び方は直線的で翼を数回はばたいては体に付ける動きを繰り返すことで速度が出て省エネ<sup>しょうえん</sup>の飛行ができることで長距離の渡りに適しています。

冬鳥のツグミの繁殖地<sup>はんしよくち</sup>はシベリアやカムチャッカ半島とサハリン等です。そこから主に二つの越冬地<sup>えつとうち</sup>を目指して長距離の渡り<sup>ちようきょり</sup>をします。

中国南部とミャンマー（旧ビルマ）や東南アジア地域の越冬地

日本

日本国内の越冬地を目指すルートは二つあります。

日本海を横断して北陸・山陰地方の山地に渡り、そこから石川・富山・長野・岐阜の各県を經由して各地の越冬場所に分散するルート。渡来する鳥の数が圧倒的に多い主流のルートです。そのために1947年に霞網獵が禁止されるまでは、尾根に張り巡らした霞網で移動中のツグミ、シロハラ等の大群を食用として多い年には400万羽も捕獲していた悲しい時代がありました。

サハリン、千島から北海道を通り、津軽海峡を渡って日本列島を南下するルート

この延長線上に関東地方の東部から越冬地に渡る前のツグミの大群を見る機会のある茨城県の表 筑波があります。この山麓一帯は地形の関係で雨量が多く、傾斜地ですので水のはけもよく、いろいろの果樹が栽培されています。毎年11月を過ぎると収穫されず熟れたままの残った柿がたくさんあります。ツグミの大群が大好物の柿のついた木に鈴なりになってついばみ体力を回復してから越冬地を目指して渡っていきます。原因はわかりませんが渡来する時期と鳥の数に以前よりムラが多くなったのが気がりです。

目指す越冬地にたどり着いたツグミは、初めのころは大きな群れで木の実を多く食べる樹上の生活が中心ですが、次第に分散して広い農耕地、川原、芝地から市街地の公園や庭先などに定着して地上で餌をとる生活が主になります。越冬するツグミは天敵の猛禽などから身を隠すことができない開けた地上で昆虫やミミズ等の小動物を捕らえますので、4～5歩足早に歩いては胸を反らせる独特の姿勢で立ち止まっては周囲を警戒する動作を繰り返します。

冬枯れの農耕地で寒さを避けるために止めた車内から猛禽類や小型の冬鳥を観察していると、ツグミ、ハクセキレイ、ヒバリ、タヒバリ等が車の方に歩み寄ってくる場合があります。しかしツグミ以外の鳥は警戒をして車から3～4m位の距離が限界で方向転換するか飛び去ってしまいます。ツグミは違います。例の足早に歩いては立ち止まって胸を反らす動作を繰り返して車に近づき、車内を覗きこむ様にわきを通り抜けて、ルームミラーで姿が見えるところまで行って悠然と車の前方の初めいた場所まで飛ばずに歩いて戻っていくなど、なつくくて好奇心の強いとても可愛らしく身近に感じる鳥です。



トラツグミ

ツグミは21世紀の森と広場では例年10月の中頃ころから姿を見せ始めて、11月の初めには定着して越冬します。翌年の4月、繁殖地にかんざつしゃ戻るまで自然観察舎を中心に見ることができます。同じ大型のツグミ科の3種も越冬しますので、別表の越冬環境の場所で観察することができます。

21世紀の森と広場で見られる大型のツグミ科越冬環境

	ツグミ 24cm 冬鳥 長距離	アカハラ 23.5~24cm 冬鳥・漂鳥 近距離	シロハラ 24cm 冬鳥 長距離	トラツグミ 29.5~30cm 漂鳥・留鳥 近距離
耕地(こうち)				
低い木のある草地				
日の当たる林				
林縁(りんえん)				
日差しが少ない林、植え込み				
うす暗い林				

大型ツグミ科4種の渡り(移動)の方法

	ツグミ	アカハラ	シロハラ	トラツグミ
星座の位置				
陸地の目標と記憶				
体内時計と偏光(へんこう)				
地磁気(ちじき)によって				

## 自然観察舎・湿地の観察会

自然観察舎では、自然解説員と一緒に「自然生態園」の木道を歩く、観察会を実施しています。費用は無料です。自然観察舎窓口で受け付けています。

実施日	時間	定員	連絡先
土・日曜、祝日	10:00~10:30	先着25名 (当日受付)	047 - 340 - 4140
	11:00~11:30		
	13:30~14:00		
	14:30~15:00		

# トリノフンダマシは ガがお好き

自然解説員  
馬場 友希

クモは網を張って様々なタイプの昆虫を捕えることが知られています。しかし、クモの中には特定のグループの昆虫を狙って食べる変わり者もいます。今回はそんな変わり者のトリノフンダマシの仲間を紹介したいと思います。

トリノフンダマシの仲間はコガネグモ科のトリノフンダマシ属 (*Cyrtarchne*) とサカグチトリノフンダマシ属 (*Paraplectana*) に属するクモのことを指し、日本ではトリノフンダマシ、オオトリノフンダマシ、アカイロトリノフンダマシ、シロオビトリノフンダマシ、サカグチトリノフンダマシ、ツシマトリノフンダマシの6種類が知られています。この仲間は一見クモとは思えない姿をしており、トリノフンダマシとシロオビトリノフンダマシは名前の通り鳥の糞のような色をしています(図1)。一方、アカイロトリノフンダマシ、サカグチトリノフンダマシは赤地に白い斑点を散りばめたカラフルな模様をしており、まるでテントウムシのようです(図1)。おそらく鳥の糞や、嫌な匂いをだすテントウムシに姿を似せることで、天敵から食べられないように身を守っていると考えられます。また、この仲間はオスのサイズがメスに比べて極端に小さいのも特徴です。メ



図1 シロオビトリノフンダマシ(左)とアカイロトリノフンダマシ(右).それぞれ鳥の糞とテントウムシに似ている。

スの体長は7  
10mmであるの  
対し、オスはわ  
ずか1.5mm-2.5  
mmしかなく、  
まるで別種の  
ように見えます。

トリノフンダマシ  
の仲間は見た目  
の奇妙さもさる  
ことながら、ガ  
を専門的に

捕らえるという面白い習性をもっています。一般的にガは網を張るクモにとって捕らえにくい獲物の一つです。なぜなら、ガは翅(はね)に鱗粉(りんぷん)をもっているため、たとえ網にかかったとしても鱗粉がはがれて逃げられてしまうからです。また翅を盛んにばたつかせるため、その反動で逃げられることもあります。では、トリノフンダマシの仲間はどのようにしてガを捕えているのでしょうか？

トリノフンダマシは円網を張るクモの仲間ですが、コガネグモやオニグモが作るらせん状の円網とは異なり、糸の間隔が広い同心円状の円網を作ります。一見スカスカでたよりなさそうな網ですが、その構造と糸の性質にはガを捕まえるための巧妙な仕掛けが隠されています。まず網構造に注目してみると、網の骨組であるタテ糸と獲物を捕まえるためのヨコ糸との連結部分が一部ゆるくなっており、ガがヨコ糸に触れた瞬間、ヨコ糸の片側が自動的にはずれる仕組みになっています（図 2）。

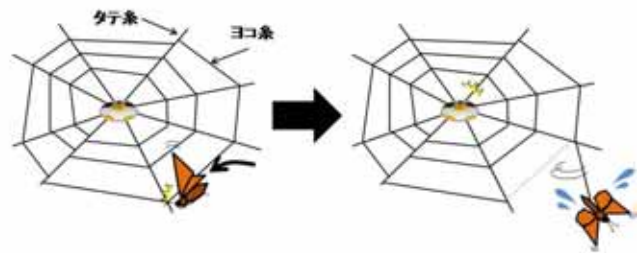


図 2 トリノフンダマシ類の餌捕獲の様子を表した図。ガがヨコ糸に触れると、片側のタテ糸との連結部分がはずれてガは宙吊りになる。

そのため、ガはヨコ糸にくっついたまま宙ぶりの状態になってしまい、翅をばたつかせてもその反動でうまく逃げることができなくなります（参考文献 1）。さらにトリノフンダマシの仲間のヨコ糸は、他の円網を張るクモに比べて伸縮性、強度が高く、粘着力もきわめて強いことが分かっています（参考文献 2）。そのため、ガはひとたびヨコ糸にくっついてしまうと、糸を振り切ることができないのです。ガに気づいたトリノフンダマシはゆっくりと近づき、上からヨコ糸をたぐりよせることでガを捕えます。まさにガを捕まえるための究極の罠といえますね。

クモの中で異端児のトリノフンダマシの仲間ですが、その特徴的な外見とは裏腹に人目につきにくいクモです。なぜなら活動時間が夜間に限られており、昼間は草むらや樹木の葉裏に身を潜めているからです。また種類によってはとても個体数が少なく、サカグチトリノフンダマシ属の仲間ではまだオスが発見されていません（参考文献 3）。このようになかなかお目にかかるのが難しそうなトリノフンダマシの仲間ですが、昼間に葉の上で堂々と休んでいることもあり、遭遇するチャンスもないわけではありません。21 世紀の森と広場でもトリノフンダマシとシロオビトリノフンダマシの 2 種の生息が確認されていますので、機会があればこの奇妙な生物を探してみてもいいのではないでしょうか。

#### 参考文献

- [1]池田博明、新海明、谷川明男 (2003)クモの巣と網の不思議 多様な網とクモの面白い生活 文葉社
- [2]宮下直 編 (2000)クモの生物学 東京大学出版会
- [3]小野展嗣 編 (2009) 日本産クモ類 東海大学出版会

# パークセンター 10月・11月の催し物



講座名	日時	定員	講師等	費用	受付
野草ウォッチング (雨天時は屋内)	平成 21 年 10 月 3 日(土) 10:00～11:30	25 名	自然解説員 川端祥子氏	無料	9/15～
自然観察会 「佐々木洋のウルトラ アイ!!～公園にいる生き 物を見つけよう～」	平成 21 年 10 月 4 日(日) 13:30～15:30	30 名	プロナチュラリスト・ 佐々木洋氏	無料	9/15～
みどりの講習会 「花もの盆栽の管理」	平成 21 年 10 月 8 日(木) 10:00～12:00	30 名	日本盆栽協会松戸支 部長 真嶋誠一氏	無料	9/15～
昆虫ウォッチング (雨天時は屋内)	平成 21 年 10 月 10 日(土) 10:00～11:30	25 名	自然解説員 馬場友希氏	無料	9/15～
みどりの講習会 「ハロウィンのブリザーブ ドフラワーアレンジメント」	平成 21 年 10 月 10 日(土) 13:30～15:00	25 名	ハンギングバスケットマスタ ー・杉田佳子氏	2,000 円	9/15～
展示 「農とふれあう作品展」	平成 21 年 10 月 13 日(火) ～18 日(日)	-	J A まつど女性部	無料	-
園芸教室 「葛のリース」	平成 21 年 10 月 24 日(土) 13:30～15:00	24 名	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	1,000 円	10/1～
バードウォッチング (雨天観察舎)	平成 21 年 10 月 25 日(日) 10:00～11:30	25 名	自然解説員 直井 宏氏	無料	10/1～
みどりの教室「季節の絵 手紙を描きましょう」	平成 21 年 10 月 29 日(木) 10:00～12:00	30 名	絵手紙わの会 萩原典子氏	200 円	10/1～
園芸教室「鉢花(シクラメ ンなど)の手入れ」	平成 21 年 10 月 31 日(土) 13:30～15:00	45 名	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	10/1～
野草ウォッチング (雨天時は屋内)	平成 21 年 11 月 3 日(火) 10:00～11:30	25 名	自然解説員 加藤裕一氏	無料	10/15 ～
みどりの講習会 「手作りキャンディバスケ ットの寄せ植え」	平成 21 年 11 月 7 日(土) 13:30～15:00	36 名	千葉県グリーンアド バイザーの会 吉田俊一氏	2,000 円	10/1～
園芸教室「秋花壇の植物 と冬越しのしかた」	平成 21 年 11 月 8 日(日) 13:30～15:00	45 名	みどりの相談員 青島尚祐氏	無料	10/15 ～
自然観察会「調べてみよ う!木の二酸化炭素吸収 量(雨天時は屋内)」	平成 21 年 11 月 15 日(日) 10:00～12:00	25 名	自然解説員 藤田泰氏・加藤祐一 氏	無料	10/15 ～
みどりの講習会 「冬の寄せ植え」	平成 21 年 11 月 21 日(土) 13:30～15:30	20 名	千葉県流山高等学校 横山和穂氏	1,000 円	11/1～
バードウォッチング (雨天観察舎)	平成 21 年 11 月 22 日(日) 10:00～11:30	25 名	自然解説員 今村裕之氏	無料	11/1～
園芸教室 「そば打ち体験」	平成 21 年 11 月 28 日(土) 13:30～15:30	20 名	みどりの相談員野口 宣二氏	1,500 円	11/1～
自然観察会「森の実りと 紅葉の観察会」	平成 21 年 11 月 29 日(日) 10:00～12:00	20 名	森林インストラクター 國安哲郎氏	無料	11/1～

注) 予定に変更が生じる場合がございますので、詳細はパークセンターまでお問い合わせ下さい。



# は 葉ぼたん

みどりの相談員  
丸尾三恵子

冬の花壇や寄せ植えにかかせない葉ぼたんは、江戸時代にオランダから食用の野菜として渡来し、観賞用として日本で育種されました。

日本の誇る育種技術で育種された独自の品種の一つです。現在では、ヨーロッパ・アメリカなど海外でも花壇材料として人気です。

アメリカでは、ブロッコリーより栄養価が高いということで、食用にも利用されているそうです。

冬の花の少ない時に、寒さにも乾燥にも強く丈夫なので、ほったらかしでも元気に育つことも冬の花壇に多く使われる理由のひとつです。

また紅白の葉は正月用に縁起の良い花材としても重宝します。

秋になると、葉ぼたんのいろいろな苗が出回ってきます。

丸い葉、切れ込みがある葉、縮れている葉、赤い葉、白い葉、背の高いもの、大株のもの、ミニのもの、分枝している葉ぼたんなど多様です。おもしろいことに、名前には、つくみ、たか、くじゃく、はと、すずめなど、多くは鳥の名前が付いています。

近頃、葉ぼたんのいろいろな品種を使って、葉ぼたんだけの寄せ植えするのも人気です。



## 冬の管理

・土：特に選びません。寄せ植えの場合、普通に売られているプランターの土でかまいません。

露地の場合、そこそこ水はけが良ければ大丈夫です。

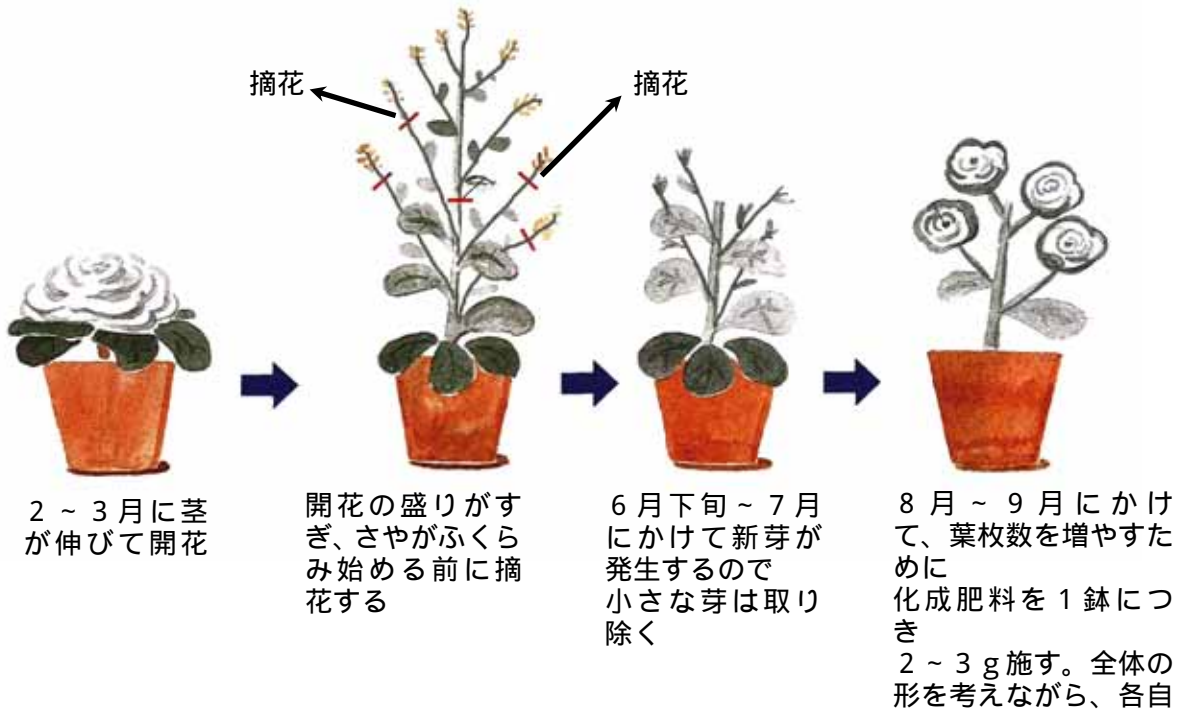
・水やり：乾燥に強いですが、特に冬の水やりは、午前中にするのと、葉のあいだに水が入って凍って痛まないように、根元に与えるようにすることも大切です。

・虫対策：植えこみ時に、苗の下に、オルトランなどの殺虫剤を入れておくと、春のアブラムシ予防対策になります。

・肥料：春まで、特にやる必要はありません。

葉ぼたんは、一年草と見られて、春になって葉がツリー上に伸びてくると、捨ててしまうことが多いですが、実は多年草です。今回は、ぜひ捨てずに、「踊り葉ぼたん」に挑戦しましょう。

## 「踊り葉ぼたんの」作り方



## みどりの相談室

パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738



発行日：2009年10月1日  
 発行：21世紀の森と広場パークセンター  
 開館：9：00～16：30  
 11月1日～2月末までは  
 9：00～16：00  
 月曜休館（祝日開館／翌日休館）  
 〒270-2252 松戸市千駄堀269  
 TEL 047-345-8900  
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。



21世紀の森と広場シンボルキャラクター  
 ドンちゃん・グリちゃん